

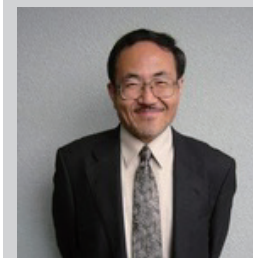
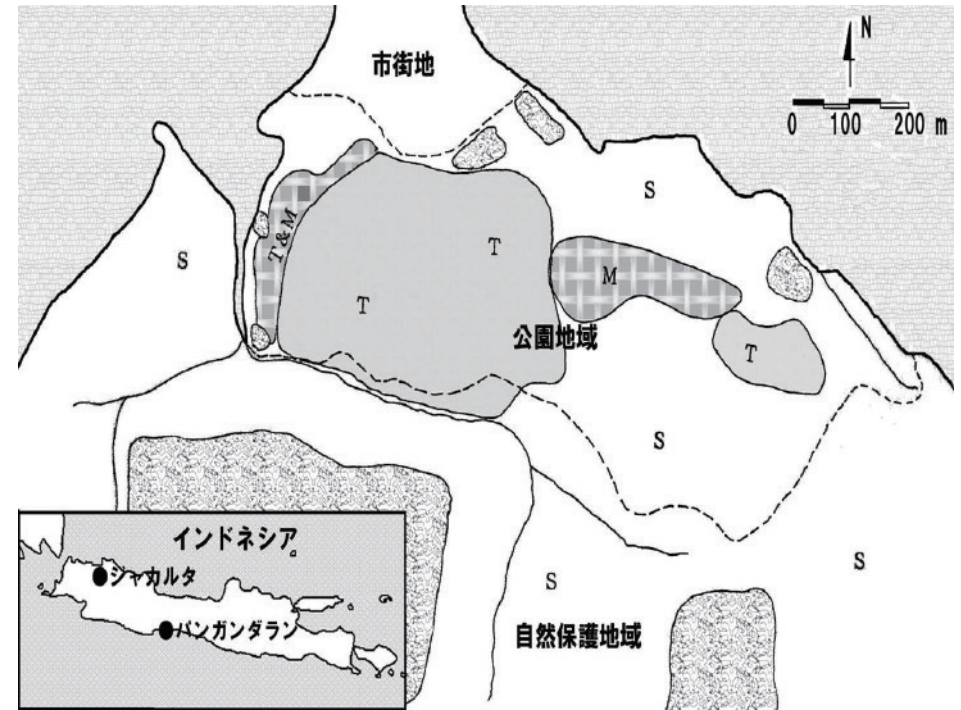
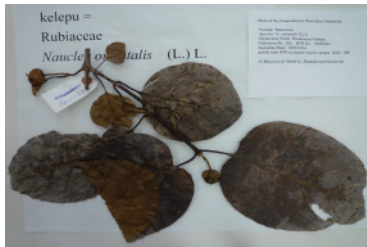
ジャワ島パンガンダランのルトンの長期研究

インドネシア・ジャワ島のパンガンダラン自然保護区に住むシルバールトンの個体群は、1976年以降、パジャジャラン大学、ポゴール農科大学、人と自然の博物館、京都大学などによって調査されてきました。この研究のおかげで、長期的な個体群動態のようすが明らかになりつつあります。現在は京都大学霊長類研究所の辻大和さんを中心に調査とデータの整理が進められていて、パジャジャラン大学生態学研究所のエリー・メガンタラさん、ポゴール農科大学のバンバン・スリョプロトさん、元京都大学霊長類研究所の渡邊邦雄さんと共に、人と自然の博物館（兵庫県立大学自然・環境科学研究所）の三谷雅純が共同作業をしています。

シルバールトンは甘い果実は食べず、繊維質の木の葉や苦い木の実、種子といったものを食べて生きています。またシルバールトンはメスたちの集団に1頭のオスが入る集団を作りますが、オスの交替のときには、ラングールというサルや、チンパンジーとかゴリラなどの類人猿で有名な「子殺し」を行うことが見つけられました。そのようなシルバールトンですが、個体群密度はマホガニーやチークといったプランテーションで、天然林よりもずっと高い密度で生息することが分かっています。しかし、マホ

ガニーやチークなどのプランテーションはジャワ島のあちこちにあるのに、パンガンダラン自然保護区だけがきわめて高い個体群密度であることが不思議です。

今、この大きな謎に取り組んでいます。



インドネシア・ジャワ島のパンガンダラン自然保護区に住むシルバールトンの長期研究
代表者: 辻大和(京都大学霊長類研究所)
分担者: 三谷雅純, 渡邊邦夫(元京都大学霊長類研究所)
協力者: エリー・メガンタラ(パジャジャラン大学), バンバン・スリョプロト(ポゴール農科大学)
財源: 科研費・その他の民間研究費